



# 三春町歴史民俗資料館

## 友の会だより



2020年3月31日発行

編集・発行 三春町歴史民俗資料館友の会

福島県田村郡三春町字桜谷5 電話 0247-62-5263 FAX0247-62-6953

### 会報に寄せて

会長 佐久間 眞

私たちの心の中に「歴史のことを含めて、三春町のことをもっと知りたい」という思いがあります。このような思いに応えるために歴史民俗資料館があり、友の会があります。資料館の事業としては、調査研究

をもとにした特別展、企画展を開催し、さらには職員の方々による講座や学習会、外部講師を招いての講演会を開催しています。また、友の会の活動としては、興味関心に基づいて町外研修やグループ活動を実施しています。

グループ活動は会員の中からリーダーをお願いし、①三春の町並みを語る会、②方言を学ぶ会、③縄文土器を作る会、④つるし飾りを作る会を組織し、楽しく活動をしています。より多くの会員の参加を求めています。

友の会の課題は、会員の減少です。会員を増やすために、



河野広中と自由民権運動について講話する佐久間会長

### 令和元年度 友の会活動

4月13日(資料館企画展示室)

春季企画展「石塚省三」見学学習

5月29日(資料館研修室)

第1回理事・幹事会

6月15日(資料館研修室)

民俗講話「昔話と女性の仕事」

6月23日(三春城跡、ほか)

史跡散策「三春城跡」

7月28日(資料館研修室)

美術講話「雪村について」

8月24日(資料館研修室)

民俗講話「三春の怖い話」

9月28日(資料館研修室)

歴史講話「松下長綱の改易」

10月16日・26日(群馬県高崎市)

町外研修(達磨寺、群馬県立歴史博物館、ほか)

10月19日(資料館企画展示室)

秋季特別展「武士の時代の終わり」見学学習

11月20日(資料館研修室)

歴史講話「河野広中と自由民権運動」

1月18日(まほらホワイエ)

パネル展「三春の文化財」見学学習

2月15日(八文字屋)

茶話会(風食会)

2月28日(福島市)

つるし雛見学会(飯野町・飯坂町)

※3月の学習会と第2回理事・幹事会は新型コロナウイルス感染症の流行を考慮して中止しました。

# 縄文人のいのり

笹川 史

ここでは粘土で土器を形成し、乾燥後縄文時代に則り野焼きする。渡辺さん指導の元に歴史の方、会員、一般、消防団員も待機して一日がかりで木を燃やす。仲間と焼き芋を頬張りながら焼成を待つ。高揚の一時でもある。

縄文土器は実用のみならず造形の中に縄文世界が凝縮されている。口縁に顔が付き新生児が顔を覗かせている土器がある。煤や焦げの付着があり煮炊きしたことが分かる。これは食物の神を象り秋の収穫の祭りに用いたようだ。だがそれは人面、赤子の首も腕が母体（本体）も殺められ捨てられる。これは雑穀が稔り収穫の際の穂首刈りを想起させるといふ。作物の擬人的造形だ。古事記にも食物の神が殺められ屍体の各所から蚕、稲の種、小豆等が発生するという五穀誕生の似た神話がある。

壊された土器は壊すべく意図した製法で作られ、これを「チヨコレート分割」の原理と呼んでいる。余談だが器底に鯨の背骨の輪切りの跡や布地の跡が残された物がある。これらは今日のロククの跡だ。当時の生活が垣間見える。千古、いや万古の謎解きに一喜一憂し、土器作りは一向に向上しないのだ。

# 陶芸体験

村田 れい子

縄文土器の教室に参加して、色々勉強させて頂きました。土偶から始まり縄文時代にタイムスリップした気分になりわくわくしながら資料を参考にし、毎月の製作が待ち遠しくなりました。

歴史民俗資料館から場所を提供してもらい思う存分活動が出来ました。縄文の土を用意し、指導してくださった渡辺安里先生のお蔭で今まで続けることが出来ました。

これからも自由な発想を持って、作品作りに楽しみたいと思います。なお現在教室に参加している人が少ないので、皆さんの参加をお待ちしております。



完成した縄文土器の前に集合



常設展示室内囲炉裏端での昔語りのようす

# 昔話に想う

山内 節子

「むかーし あったど。あつとこに・・・」と始まる昔話のあたり。

歴史民俗資料館が無料開放になった「県民の日」と「東北文化の日」に、いろいろのある展示コーナーで昔話を語る機会があった。聞き手は、その時入館していたお客様。小学校低学年の子どもから年輩の方々まで客層はさまざまである。

しばらくぶりで話す場であったが、方言を入れ訛りのある三春弁で語り始めると、私の方に顔を向けじっと耳を傾けてくれた。

昔話には、善し悪しのこと、事の起り、事象などが一つ一つの話の中に秘められている。「ひよっこ」の出でくる話をしたら、「ああ、そうだったのか」と感心しながら帰った人がいた。

三春にも語りつがれている昔話がある。それらをゆくりひもとくとき、先人たちが残した知恵にふれてみたい。「ざあつとむかしが さかえ申した」

# 一 町外研修に参加して一

## 土偶の意地

圓谷 彰孝

昨秋、群馬県の博物館を訪れ、土偶の企画展を見た。面がハート型をした特徴のある顔立ちだ。成立年代は埴輪よりも古く、安産や子孫繁栄を祈願する祭具として用いられた。魔除け対策につくられた埴輪とは、たどった道が違うのだ。縄文人の家族愛と、一族の安寧を第一とする、彼らの生活ぶりが伺える。

野焼きの、あどけない表情の土偶だが、そこには過酷な環境で生き抜こうとする、縄文人の意地があった。恐れ、怒り、悲しみ——それらを全身で受けとめ、誇りをもって生き抜こうとしたのだ。

彼らは、刻々と変化する大自然に争うことなく、ひたすら順応に努め、同胞との連携を密にした。その姿は、われ先にと争い、ひたすら利益を追求する、現代人への警鐘とも受け取れる。

聖徳太子の『十七条憲法』第十条にいわく、「相共に賢く愚なること、環の端無きが如し」<sup>みみがね</sup> 互いに賢さも愚かさももっているのは、圓い環に端がないようなもの<sup>まるいわ</sup> 。「共に是れ凡夫耳」<sup>たまたしのみ</sup> 「衆に従ひて同じく挙へ」と説いた、太子の教訓に、改めて耳を傾けたい。



## ありがとう。町外研修

渡辺 あずさ

私が楽しみにしていたのは土偶を見る事だった。しかし、まずはテレビで見たい事のある群馬県庁へ。32階からの眺めはなるほど素晴らしい。ケンミンが誇らしく思うのがよく分かった。

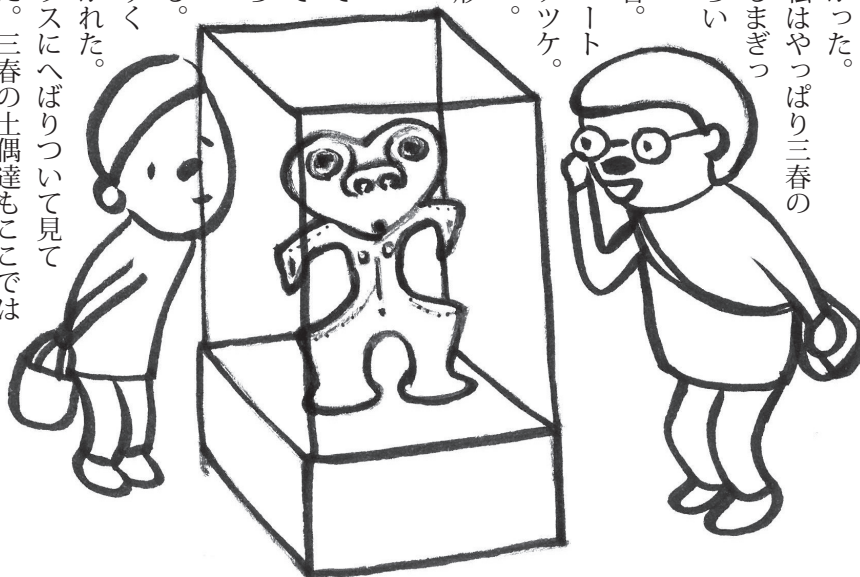
少林山達磨寺で思った。私はやっぱり三春のだるまが好きなのだ。だるまぎっしりだるま堂が町にあつたらいいなと。

群馬県立歴史博物館へ到着。土偶だ！土偶だ！企画展「ハート形土偶大集合！」だ。オチツケ。学芸員にくつついて展示室へ。

まず目が合ったのはハート形土偶。ポンと置かれた個室の展示ケースからこちらを見ていた。こんなにも近くで土偶の全体を見たのは初めてだった。この展示はおもしろい。「個室」と名付けた。個室は奥の方にもいくつがある。

学芸員の説明は分かりやすくおもしろい。増々興味を引かれた。気がつくとも私同様、皆、ガラスにへばりついて見ている。楽しい空気に包まれた。三春の土偶達もここでは違つて見えるから不思議だ。特に驚かされたのは、三春の結髪土偶。堂々の個室入り。しかも国宝と並んでいる。なんと誇らしい。満足の内容だった。素直に言えば、もっと時間がほしかった。

自分では行かないところ、行けないところへ連れて行ってもらえる。そこで発見がある。それが町外研修。



## 町並みを語る会

横山 俊和

町並みグループは、平成二十年四月に発足しました。リーダーが決まったのが、七月と遅くなりました。（因みに、私は二年目から）

まず、取り組んだのは、三春町が最も賑わっていた昭和三十年代の町並みを再現し、後世まで残したい思いつからでした。

完成日の目標は決めず「あせらず、ゆっくり」をモットーに始めました。登録者は毎年十名前後おりましたが、実際に活動していたのは、四五名でした。約五十年前のことなので、資料も少なく歴史保存の写真や出版社刊行の「写真アルバム・郡山・田村の昭和」の本そして多くの町内の方々のご協力を頂きなんとか完成が近づいた時、歴史から平成二十二年の秋季企画展「広告がうつす商い」に展示要望があり、月一回の会合を増やしたとか開催に間に合いました。十一月の文化祭でも「まほら」に展示し見て頂きました。

その後、三春駅が開通百周年（郡山〜三春間）を平成二十六年に迎えるとのことで、駅周辺の再現にかかり、完成後同年の六〜七月の約一ヶ月間に展示しました。歴史にある地図と同じものを、平成二十三年七月に岩江中、二十五年には、新三春中

の希望もあり文化祭に間に合うよう作り提供しました。（両方とも小林鶴夫さん一人で作成）そして、現在は全く価値がないが何年か先のことを考え平成の地図に取り組みましたが、メンバーも年を重ね根気も気力も衰え又家庭環境も変わり、欠席者が多くなり、会合を二ヶ月に一度に変えましたが、それでも欠席者は減らず一人や二人の時もあり、継続は難しいと判断しました。平成の地図が完成した令和元年十月八日をもって、活動を休止することになりました。

今迄、活動して来たグループの皆様そしてご協力頂いた方々有難うございました。



昭和30年代の町並みパネルを文化祭で展示しました。

## つるし飾りを作る会



人形館内に飾り付けたつるし飾り



福島市へつるし雛の見学に行きました。

令和2年度 会員募集

## 友の会に入りませんか

歴史民俗資料館友の会では、令和2年度の会員を募集しています。会員になると、年間、資料館と人形館の開館中はいつでも無料で入館できます。

また、学習会（月一回程度）や町外研修（年一回程度）のほか、希望するグループ活動にも参加できます。年会費は、一人につき一五〇〇円です。

### 学習会等の予定

- 4月 春季企画展見学学習
- 5月 歴史民俗講座
- 6月 歴史民俗講座
- 7月 歴史民俗講座
- 8月 体験講座
- 9月 秋季企画展見学学習
- 10月 歴史民俗講座
- 11月 町外研修
- 1月 歴史民俗講座
- 2月 茶話会

### 現在活動中のグループ活動

- 方言を学ぶ会 ○縄文土器を作る会
- つるし飾りを作る会
- 学習会は座学で行うほか、街なか散策、史跡散策なども検討しています。詳しい日程は決まり次第、会員の皆さまにお知らせいたします。